

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 139 平成22年10月25日

発行 社会福祉法人 武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042 (623) 8509

<http://www.musashinokai.jp/>

特集 武蔵野会のグループホームの運営



旅行中の体験「ほうとう作り」(きね川福祉作業所)

トーク 日本語

「婚活」や「就活」など、言葉を極端に縮めて表現するのが、近年ますます加速する流行です。流行をきちんと追いかけていないと、言葉の意味が分からない場合があります。これがさらに「アラフォー」や「アラ還」など、カタカナ交じりの省略語にもなると、それこそ「アラ還」より前の世代では理解できない人が増えてくるかもしれません。

個人的体験ですが、雨の日に地下街の商店で買い物をしたとき、店員に「雨はまだ降ってらっしゃいますか」と言われてびっくりしたことがあります。必要以上に「させていただく」を多用する政治家もありますが、尊敬語や謙譲語などの使い方もかなり乱れてきているようです。

このような風潮に対して、先日ある新聞のコラムで警鐘を鳴らしていた方は、テレビも「テレビジョン」と表現しておられましたが、そこまで厳格に戻さないにしても、できる限り日本語は正しく使っていきたいものです。

なぜなら、日本語の使い方が安易になることは、日本語による思考も安易になることにつながると思うからです。国のリーダーにきちんとした歴史観や哲学を持つ政治家を求めるならば、国民各層にもその土壌が求められます。

日本語問題の本質と同じことは、施設における日々の支援記録や会議録などの書き方にも通じる面があります。そこで使われている言葉が不適切であったり、内容が誰にも分かるように的確に表現できていないとすれば、支援のレベルそのものが問われることにもなるからです。

私たちは、言葉や、それを使った表現の問題にもっと関心を持つ必要があると思います。

特集 武蔵野会のグループホームの運営

今回の特集は、武蔵野会が運営しているグループホームの状況を報告いたします。まだまだ、十分な数と質の提供のための法人の努力は不足していますが、これまでの歩みにも少し、ふれておきます。

武蔵野会では、御殿場で、昭和56年頃から、さくら学園の前身の東京苑で、民家を借りて利用者が生活する「自立棟」という取り組みを独自に行っていました。月のうち一週間を「自立棟」で生活する短期組と、「自立棟」を基盤に生活と実習を行う長期組がありました。また、利用者が誰でも宿泊できる家や家族との生活を促進する家など、4軒の民家を借りていました。利用者の希望を聞きながら、東京都の制度である都内の「生活寮」に移行したり、御殿場市での生活を希望する利用者には、職員が自らの家を提供して生活したりしていました。そのうち、職員の一人が御殿場市内で和久井生活寮を行うことになり、それが、武蔵野会の知的障害者の生活寮の第一号で、昭和60年から平成元年まで続きました。その後、平成元年に八王子に榎原寮ができましたが、翌年に大島に移り、柘植寮となりました。大島では、当初は民家を借りて実施していま



柘植寮での生活は、皆さんの充実した毎日を支えています。

りとサポートしてきた成果でもあります。

大島は、都会のように便利ではありません。買い物もホームから随分歩かなければなりません。大島の南部ですから、元町にはバスで出かけます。しかし、ここ大島には住まうこと、働くこと、余暇があります。島の人も顔見知りが多く、見守ってくださいます。国の施策やグループホームの制度がどのように変わっても、地域の一員として迎え入れられ、島に、地域に同化しています。支援する者にとって心配なこともあります。入居者の高齢化です。前向きに、精一杯暮らしている姿に少しでも長く、今の生活が続くことを願っています。

たが、平成8年に、第2大島恵の園の前に柘植寮を新築し、現在に至っています。

昭和56年に始めた「自立棟」は、全国でも、先駆的な取り組みでした。また、それに続く、生活寮の運営も早かったのですが、まだ、法人としての位置づけが弱く、その後のグループホームの設立は、平成15年のしろがねホームまで待つことになりました。それ以降はふじもりホーム、からすやまホームを運営したことは記憶に新しいことです。

児童養護の分野でも武蔵野児童学園が平成14年から現在まで3つグループホームを運営しています。

目の前の利用者の希望に添った生活の実現のための「自立棟」等の取り組みは、制度にないものでしたが、昭和53年の東京都の生活寮制度やそれに続く国のグループホーム制度の促進に繋がったと思っています。

武蔵野会は現在、グループホームについて立ち後れています。その後、当時の発想に立ち返り、グループホーム、ケアホームの運営や利用者の希望に添った独自の取り組みを積極的に展開し、より良い制度につなげて行きたいと考えています。

しろがねホーム 東京都港区白金 216-12

しろがねホームは、平成15年に白金台の閑静な高級住宅地のなかに一軒家を借り上げてオープンしました。現在は3人の男性が入居しています。

入居者の皆さんが趣味として熱心に取り組まれているのが創作活動です。東京芸大の講師の方に月に一回きてもらい、絵画だけでなく、木工オブジェなど、自由な発想を思い思いに形にしています。その成果は東京都障害者美術展に二回出品し、二回とも入選しているという実績が物語っています。

余暇活動から紹介します。楽しみとなっている旅行。今年の夏は酷暑の中、山に涼を求めようというこで入所者の意見が一致しま



クリスマスのお祝いに玄関に飾りました。



閑静な佇まいの玄関口。ご近所との交流も深まりました。

柘植寮 東京都大島町差木地1

柘植寮の原点はさくら学園の一職員から始められた生活寮にあり、八王子の生活寮を経て、現在の建物は都の補助金を受けずに第2大島恵の園の正門前に建設されたものです。今ほどに、地域福祉が語られる前に、法人の視点はグループホームにあったわけです。

現在の入居者は男性2人女性2人、すでに14から19年、大島の地に住み、日中は非常勤で施設の洗濯業務、清掃業務、喫茶店業務に携わっています。それぞれに充実した日々を送りつつ、一緒に島内旅行を楽しんだこともあります。気候の良い大島で働き、暮らし、今、生活は充実しています。

月に一度、出身地の浅草方面に外出することを楽しみにしている人もいて、「いつもの雷おこしですが、皆さんでどうぞ」と気配りをされます。誰かに何かをしてもらうのではなく、何かをしてあげる喜びを生活の中で実践しています。こうした安定感のある生活は、大島恵の園と第2大島恵の園の職員たちが、物心ともにしつか

した。行き先は、岐阜県の恵那峡と八ヶ岳方面です。恵那峡では、湖上に立ちこめた幻想的な霧の中を遊覧船で進んでいきました。富士見台高原では、眼下に敷き詰められた花の絨毯の上を、ロープウェイでの空中散歩を楽しみました。

旅行は総勢6人で出かけ、入居者の3人、ホームオープン当初からの世話人、ホームの隣りに住まわれて、5月から世話人となった方と、ホームの向かいにお住まいの方が、ボランティアで参加しました。このメンバーで、コンサートに出かけるなど、休日は充実しています。こうした余暇活動は、港区知的障がい者運営費補助金を活用して実施しています。

むさしの武蔵野障がい者制度の改革

先月、菅直人首相の続投が決まった。しかし、先送りされてきた政治政策課題は山積みだ。消費税をはじめとした税制改革、円高など経済対策、普天間移設など外交・安全保障。そして社会保障では、納税者番号制度・介護保険改革・保育サービス強化とともに、障がい者制度改革である。

政府は障害者権利条約の締結に向けて障がい者政策全体を見直すための指針を決めた。障がいをどう捉えるかという根幹にまでさかのぼって既成の枠組みの転換を図るという。この指針は「障がい者制度改革の推進のための基本的な方向」とされ、昨年12月に発足した政府の障がい者制度改革推進本部がまとめている。

改革の目標は障害者権利条約の批准。障がい者が自らの選択と決定で社会参加し、地域で自立して生活する。指針は条約の理念に沿って国内法を整備するための土台となる。最大の特徴は障がいのとらえ方の転換。障がい者にとって治療や訓練で克服すべき対象とされてきた心身の疾患や損傷を、

個性として尊重するということ。障がいを負うリスクは誰にでもある。そのことを踏まえれば、障がい者が健常者と等しく権利を行使できる社会の仕組みを改善していくことは重要だ。指針は正に国民全体の意識改革を求めている。政府は条約の受け皿として障害者基本法改正案を来年の通常国会に出す。応能負担が批判された障害者自立支援法にかわる障害者総合福祉法（仮称）を2010年に、障害者差別禁止法を2013年に提案するという。

これらの改正と並行して、障がいの有無によらず全てのこどもが共に学ぶ教育制度や、自立生活を支える所得保障制度に加え、労働や雇用、医療など11分野で抜本改革を目指している。

この1年間で、当事者が半数以上を占める推進会議が設置されたこと、障害者自立支援法違憲訴訟団体と国との間で合意文章が結ばれたことなど画期的な動きが見られた。財源や人材の確保などで不可能とするのは簡単だが、本来あるべき姿を見定め、やるべきことを確実のものとしたい。

世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 宮原康輔

ふじもりホーム

東京都八王子市台町

11913

ふじもりホームは、地域の中で暮らす障がい者のための「まかない付きアパート」をイメージして、住宅街の中にあります。

平成18年、武蔵野会で3番目のグループホームとして誕生しました。施設は法人本部の1、2階と半地下部分で、現在、男性4人が入居しています。

この建物は、ある工務店の社長の住居と社員寮が併設されていたものを、平成16年に法人が取得しました。社員4人分の個室を、当初からグループホームに最適と考えていました。地下には旅館のような大きなお風呂が付いていましたが、使い勝手が良いように改修しています。広い湯船を少し小さくしましたが、時には入居者同士と一緒に入り、背中を流し合う光景もあるそうです。

建物が傾斜地に建てられているため、法人本部に出入りする玄関は2階に当たり、3階が法人本部となっていて、ホームは階段を下がり、1階が玄関になります。こ



温泉旅館のような浴室。一日の疲れも癒されます。

の階に居室2部屋と食堂、世話室があります。

各部屋は10畳ほどの広さ（収納面積を含む）で、室内で洗面できるように温水用洗面化粧台があり、身支度は部屋で整えることができます。利用者はまず、法人内の施設を優先しようと、開設当初は3人が法人内利用者、1人が外部からの入居となりました。現在の男性4人は、一般企業就労者、通所施設利用者、通所施設に通いながら就労している方たちです。

からすやまホーム

東京都世田谷区南烏山

119120

からすやまホームは、平成21年の7月にオープンしたグループホームです。京王線芦花公園駅か



地域に支えられ、快適に一年がたちました。

ら西に500m位のところにあります。閑静な住宅地の少し広めのお庭の付いた一軒家です。

住人は男女各2名、それに世話人さんが交代で2名、和気あいあいと暮らしています。

からすやまホームは、目黒区在住の家主さんの「障害者のために有効活用して欲しい」との思いを受けて、法人が運営しています。

徒歩10分くらいのところに世田谷区立烏山福祉作業所があり、バックアップ施設になっています。世話人さんを支えて、急な買い物や具合の悪くなった方の通院の付き添い、また、世話人さんの都合で宿直をすることもあります。

からすやまホームを利用する皆さんが快適に生活できるよう世田谷地区全体でバックアップしていきます。



児童養護施設 武蔵野児童学園

グループホーム

武蔵野児童学園では、平成14年4月に「すずらんホーム」、17年9月に「ひまわりホーム」、21年1月に「なのはなホーム」を開設しました。三つともに本園から徒歩4分程の同じ町内にあります。各ホームに6人の子どもたちが生活し、それぞれに3人の専任職員と補助職員そしてグループホーム支援員が養護に関わっています。

現在、定員50人のうち、グループホームの入居児童18人、本園が32人となり、本園の中でも6名、6人、8人、12人の4つのユニットにした小規模グループケアで運営し、東京都専門機能強化型児童養護施設の指定を受けています。それぞれのグループホームは、すずらんホームでは高校生（男1・



9年目を迎えた「すずらんホーム」は、2世帯住宅の良さを生かして、ゆとりある生活を提供します。



6年目を迎えた「ひまわりホーム」は、手狭になり、3年前に引っ越しました。住宅地にあり、ご近所つきあいも多いです。



2年目を迎えた「なのはなホーム」は、まだ新築の香りが残る建物です。少しずつ地域の仲間に入れて頂いています。

女2）中学生（女1）小学生（男1・女1）、ひまわりホームでは高校生（男2）中学生（男1）小学生（男1・女2）、なのはなホームでは兄弟・姉妹ケースで男（中1・小4）、女（中1・小6）女（小6・小2）としていて、男女混合の縦割りの編成が特色と言えます。

グループホームの食事は、月曜～金曜は本園と同じメニューですが、土日祝日は各グループホーム独自のメニューで、専任の職員や補助職員で調理しているのも特色です。

外出行事も各々のホームで計画し、実施しています。中学生は本園での夜間学習に参加し、学力向上に励んでいます。

グループホーム

ふあみりあ

東京都千代田区神田駿河台2-1-5
千代田区立障害者福祉センター内



みりあグループホームは、御茶ノ水駅から徒歩5分という便利な立地にある千代田区立障害者福祉センター「えみふる」の2階にあります。近隣には大学、各種専門学校、ファーストフードのお店、楽器店などがあり、人の往来で賑わう、都会のど真ん中のグループホームです。

男性2人、女性2人の定員で、グループホーム（共同生活援助）とケアホーム（共同生活介護）の2事業で認可を受けています。ホームのスペースにも恵まれ、延床面積約300平方メートルで、6つの居室とダイニングリビング

ニュース ラウンジ

第二回 武蔵野会セミナー 開催

9月20日、練馬公民館のホールを会場に「第二回武蔵野会セミナー」が開催されました。昨年度に引き続きテーマには、人権を題材に選び、200人ほどが参加しました。今年度は、我が国が近い将来、批准する予定の「障がい者の権利条約」を取り上げ、午前中の基調講演の講師に内閣府障がい者制度改革推進会議構成員、森祐

22年度 第2回 武蔵野会セミナー
「障がい者の権利条約と知的障がい者施設を考える」
社会福祉法人 武蔵野



講師に内閣府障がい者制度改革推進会議構成員の森祐氏をお招きしての基調講演。

司氏をお招きし、障害者の権利条約の概要と、なぜ日本が批准せずにきたかを、わかりやすく解説していたいただきました。

午後は、森氏のほか、NPO法人おおさか地域生活支援ネットワーク理事長・北野誠一氏、日本福祉大学教授・木全和巳氏をパネリストに迎えて、当法人理事長・上野純宏の司会でシンポジウム形式ですすめました。主に、権利条約19条を中心に今後の施設、社会福祉法人のあり方について、熱のこもった意見が交わされました。

アンケートの結果、地域の方から、権利条約に関して「あまり知らなかった」という意見がほとんどでしたが、社会福祉法人がこのようなテーマを取り上げ、広く社



今後の施設、社会福祉法人のあり方について、熱のこもった意見が交わされました。

会に対して訴えていく姿勢について、期待している内容のご意見を多数頂きました。

国際ボランティア 受け入れ

大島恵の園 第2大島恵の園

大島恵の園・第2大島恵の園は平成20年度から国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部を通して、国際ボランティアを受け入れています。

これまで韓国12人、ベトナム1人、ロシア2人、フランス1人、トルコ1人、カナダ1人、ウクライナ2人、アメリカ1人、スイス1人の22人を受け入れました。

共通言語は英語ですが、それぞれ日本に興味があり、日本語を話せる人もいました。受け入れ当初は、異文化交流について、お互いに戸惑いながら、いろいろな話しができました。

ト」というプレゼンテーションソフトで統一しました。映像やアニメーションを駆使し、短い文章で解りやすく、しかも説得力のある報告を目指しました。

法人から上野理事長、高橋本部長と世田谷地区担当の金森理事が出席され、講評をいただきました。

世田谷地区で働く80余人の職員にとって、サービスクの異なる施設の実践内容を学ぶ機会となり、支援サービスの創意工夫が共有できました。今後もこのような研鑽を積み重ねることで、利用者の望む支援に近づけるように努力したいと決意を新たにしました。



他施設の取り組みから学び、さらなる自己研鑽に繋がることを期待します。

施設あれや これや

西水元あゆめ園

今年は百寿（100歳）の方をはじめ27名の方々が賀寿を迎えられました。敬老会で、ご家族とともにお祝いしました。

今年は「パバイヤフラ細田チーム」による華麗なフラダンスや混声合唱団ツヴァイのすばらしい歌声で、お祝いに花を添えました。

さくら学園

福祉の啓発と交流を目的に9月25日に市民交流センターで「ふれあい広場」がありました。御殿場社協の主催で62の福祉団体が参加。さくら学園も利用者作品販売と利用者が参加し、盛り上げに役買いました。

練馬福祉園

昨年度から、自立支援法移行に合わせて実施している児童デイサービスは2年目を迎え定員も増えました。口コミで見学者が毎日のように来園し、今では賑やかな声と小さな笑顔が練馬福祉園の日常の風景になりました。

白鳥福祉館

自主生産チームの製菓班では、現役パティシエを講師に招き、お菓子の講習会を始めました。従来品の工夫にも役立ち、完成度のアップも期待できます。季節毎の新作にご期待ください。

八王子生活実習所

「わたぼうし祭」が終わる頃、職員チームが一皮むける。新任職員が独り立ちし、職員全体の息がさらに合うようになります。折り返し地点。一旦立ち止まって職員全体のベクトルを合わせて、後半へのスタートをきりました。

世田谷区立九品仏生活実習所

当施設は2階建てでエレベーターが一台あります。この9月に地震対策の改修工事が行われ、より安心して利用できるようになりました。また、音声ガイダンス、「開延長」「自動消灯」など新たな機能もつき利用者の評判も上々です。

すぎな愛育園

市内の関係機関の方々を対象に、第16回すぎな愛育園セミナーを開催しました。今回は臨床心理士の師井和子先生より講演をいただき、親の気持ちの理解、子どもへの接し方を皆で学ぶ良い機会となりました。

千代田区立障害者福祉センター

9月から区民を対象にした新規事業「手話講習会」がスタートしました。今まで障害当事者を対象としていた事業が殆どでしたが、様々な方の利用が増えました。開設から9ヶ月が経ちますが、更なる事業を創りあげている最中です。



はじめは戸惑いながらも心で繋がった仲間たち。自国に戻っての活躍を期待しています。



大島での思い出がよき経験となればうれしいです。

世田谷地区 事例実践報告会

世田谷地区では、8月28日渋谷のこどもの城で「事例実践報告会」を行いました。職員が利用者との関わりを顧みることで、日々の支援の実践的な検証を計ることを目的にした初めての試みの研修です。世田谷地区の4施設から14事例の報告があり、健康ケアや情意へのアプローチ、作業工程の工夫、就労プログラム、新規事業の導入など多岐にわたる内容でした。

報告のツールは「パワーポイント」

お知らせコーナー

10月

- 9日 ふれあいまつり (大泉町福祉園)
- 16日 法人採用試験 (一次面接)
- 17日 八王子市ふれあい運動会
(八王子福祉作業所、生活実習所
希望の里、心障センター)
- 23日 作業所まつり2010
(北町福祉作業所)
- 23日 秋桜祭り (さくら学園)
- 23日 どんどこ祭 (駒沢生活実習所)
- 29日～31日 あやめ祭
(西水元あやめ園)
- 30日 法人採用試験 (二次面接)

11月

- 3日 Newわいわい祭
(世田谷福祉作業所)
- 6日 ふじもり祭 (八王子福祉作業所)

12月

- 4日 練馬区障害者フェスティバル参加
(大泉町福祉園、北町福祉作業所
練馬福祉園、すてっぷ)

8月10日に千代田区社会福祉協議会を通じて千代田区民生・児童委員協議会からポータブルステージ3台の寄贈がありました。かねてから利用者の自主活動や当事者団体での活動の際に、5階多目的ホールにステージの設置は出来ないかと要望があつたので、利用者から喜びの声が聞かれています。

8月21日に多数のボランティア演奏者によるサマーコンサートの



コンサートが一層もりあがりました。大切にに使わせて頂きます。

開催もあり、当日はご来場いただいた区民の皆さまや演奏者の方々にも満足頂き、お蔭様で楽しいサマーコンサートが開催出来ました。利用者の活動の時や行事などでこれからも末長く有効に活用させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。



ポータブルステージ
三台の寄贈
千代田区立障害者福祉センター



手にすれば伝わる木のぬくもり。晴れ渡る大空から、皆様のもとに幸せが届きますように。

〈小500円、大1500円〉

開設当初から、「羽生入りこけし」のブランド名で木工製品を製作販売しています。このこけしづくりでは、紙ヤスリで磨く工程がとても重要で、どれだけ丁寧に磨けるかで、仕上がりが違います。塗装はニスではなく「蠟伏せ」(ろうぶせー溶かしたロウで皮膜する方法)をし、さらに、木材本来の温もりやしっとり感が出るまで、布で磨いて仕上げます。

千支シリーズは、平成12年の

ショーケース

自主生産品紹介

希望の里の巻

住所

〒192-0151

東京都八王子市上川町3889

電話 042-654-7311



切り抜きも、一つ一つ大切に手作りで仕上げていきます。職人技が光ります。

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する23施設と4つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772

「辰」から、その年の千支のこけしを製作し、来年の卯年で十二体が揃います。来年の千支こけしは、『晴朗の卯』(せいろうのう)と命名しました。「晴朗」とは、「空が晴れ渡つてのどかなさま」を表します。写真のような空を仰ぐウサギのイメージです。世相にちなみ願いを込めて製作しました。『晴朗の卯』は、11月下旬に販売を開始します。この機会に、木の温もりを味わっていただければ幸いです。